

—若手技術者のコーナー—

土木の魅力を伝えるために

1. はじめに

平成26年に神奈川県庁に入庁し、6年目を迎えた。初めの3年間は、県の出先機関である土木事務所の道路維持課へ配属され、現場に密着した道路の維持管理の仕事に足を踏み入れた。その後、現所属である道路企画課へ配属となり、渋滞対策、自転車が利用しやすい環境の検討、道の駅開所を目指す市町村への支援など、道路の活用を含めた道路計画に関連する業務に携わっている。

土木技術者としては、まだまだ駆け出しではあるが、若手技術者としての抱負をお伝えしたい。

2. 土木のイメージと実際の魅力

私が大学に入った時、事業仕分けが頻繁にニュースで報道されていたことから、土木施設のイメージは、「無駄」であったように思う。

入庁してから、道路維持課で、右折レーンの延伸や、ガードパイプの設置などの交通安全施設の維持管理に携わり、通りやすくなったといった地元の声や事故件数の減少といった効果を実感することができ、既存の道路を安心して利用できるようにする仕事に、やりがいを感じた。

現所属では、「県道に求められているものは何か」ということを念頭におき、必要な道路を検討している。当初、私は、県内の道路は充分整備されていると考えていたが、県内に渋滞箇所は多数存在し、また、幹線道路などへのアクセス道路は充分でない。渋滞対策や地域の活性化に寄与するためにも、まだまだ多くの道路をつなぐ必要があることを実感した。また、道路がもたらす効果に対する地元の期待の大きさにも日々驚いており、道路の必要性を改めて考える貴重な機会になっている。県内の山間部・沿岸部または観光地・工業地帯などの各地域の特性を理解し、また、将来開通する自動車専用道路が与える影響を考えながら、地域の魅力を増幅させる、既存の道路の活用も含めて、まちとまちをつなぐ道路を

計画できる、この仕事の醍醐味を味わえるよう、真摯に仕事に取り組んでいきたい。

入庁して数年で、維持管理と新設道路の計画や既存の道路の活用を検討する課を経験し、改めて、土木の魅力を伝えたいと強く感じるようになった。

最近では、インフラツーリズムが盛んになり、土木施設に触れる機会が増えてきたが、まだまだ十分でない。これを契機に、私たちのような若手技術者が、土木施設の魅力を積極的にアピールしていきたい。まずは、私たち土木技術者が持っている土木のマニアックな楽しみ方を世間に伝えてみたい。私は、運転をしながら、その道路の曲率半径と勾配を体感するのが好きである。そういった視点を、世間にうまく伝えることができれば、土木施設は「無駄」ではなく「技術者の拘りの塊」として輝けるのではないだろうか。

3. おわりに

入庁してから慌ただしい5年であったが、先輩方に、温かく支えられていることを日々実感している。新しいことに挑戦しながら、業務を進めようとする先輩方の熱量は目を見張る。この職場で、「やってみよう」精神を手に入れたことは、私の人生で一番の財産であると思う。素敵な先輩方に囲まれながら、研鑽を重ね、土木の魅力を発信できる明るい技術者になりたい。



第33回下水道駅伝大会 筆者は後列左端

(神奈川県 県土整備局 道路部 道路企画課 吉田 麻由美)